

「図画工作科」学習指導案

1. 日時 令和3年10月
2. 場所 教室
3. 学部・学年・組 小学部 第2学年
4. 単元名 「ふしぎな くれよん」
5. 単元目標

- ・クレヨンが絵の具をはじく様子に気付くことができる。(知識及び技能)
- ・道具による色の付き方を見て、感じたことを言葉や声、表情や仕草で表現することができる。(思考力、判断力、表現力等)
- ・クレヨンやはけを持って、描こうとしている。(学びに向かう力、人間性等)

6. 児童観 略

7. 教材観

本単元では、主に道具を使って描く力、感じたことを言葉や声、表情などで表現する力を伸ばすことを目標にしている。道具を使う力は、図工での基礎的な力になるとともに、指先の使い方や力加減などを身につけることにつながる。また、感じたことを言葉などで表現する力を伸ばすことで、図工をはじめ、様々な教科や生活場面で自己表現をする力につながる。この活動はクレヨンが絵の具をはじいて、クレヨンで描いた絵が浮かび上がる技法(バチック)を用いた教材で、白い画用紙に白いクレヨンで自由に絵を描き、その上に自分の好きな色の絵の具をはけで塗る活動を行う。この活動を通して、クレヨンやはけなどの道具で描く力、道具による色の付き方やクレヨンが絵の具をはじく様子から感じたことを表現する力を伸ばすことができると考える。活動に対して消極的な児童や自由な発想が不得意な児童も、絵の具をはじいて白いクレヨンが浮かび上がる技法を楽しみ、関心を持って授業に参加できる教材であると考え。また、使用する道具が、クレヨンとはけという比較的扱いやすいものを使用するため、発達段階の異なる児童たちにも適した教材であると考え。

また第2次では、大きな模造紙に合同作品を作る。複数人で作成することによって混色を楽しんだり、友だちのクレヨンで書いた部分を絵の具で塗って確かめたりする楽しさを味わうことができる。そして、クラスで一つの作品を作ることで、自然と友だちの存在を意識し、みんなで一つの作品を作る達成感を味わうことができる。

8. 指導観

第1時では、バチックの技法を知り、それを楽しみながら道具を使う力や、感じたことを表現する力を伸ばしていく。初めての活動のため、活動に見通しが持てるようにスケジュールカードを使って、丁寧に活動内容を伝える。白い画用紙に白いクレヨンで描くことに面白さを感じられなかったり、見通しを持つことが難しかったりすることが考えられる。そのため、クレヨンを「ふしぎなくれよん」と名付けて興味を持てるようにしたり、絵の具を提示して「これで塗るとどうなるかな」と問いかけたりして、次の活

動に期待感を持てるようにする。また、言葉の指示の理解が難しい児童には、「グルグル」や「トントン」といった動きを引き出す言葉かけをして、気持ちが活動に向けられるようにする。そして、クレヨンがはじく様子に気づいたり、道具による色の付き方を見て感じたことを表現したりした時は、共感して自信をもって活動に取り組むことができるようにする。

第2時では、第1時より見通しを持って取り組むことができる児童が多いと考えられるため、より多くの絵をクレヨンで描くことができるように言葉かけを行う。また、自分でクレヨンやはけを持って絵を描くことの楽しさが感じられるように言葉かけを行う。その子なりの描き方や表現が見られたときに、褒めて自信を持って活動に取り組めるようにする。

第3時では、大きな模造紙に合同作品を作成する。友だちが何を書いているのか予想したり、友だちがクレヨンで描いたところを絵の具で塗る楽しさを感じられたりするように言葉かけをすることで、友だちの存在を意識しながら活動に取り組めるようにする。

9. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
①クレヨンが絵の具をはじく様子に注目したり、気づいたりすることができる。	①活動の中で感じたことを、言葉や声、表情や仕草で表現している。	①クレヨンやはけを持って描こうとしている。
②クレヨンやはけを持って描くことができる。	②自分の好きな色を選んでいる。	②教師の話をお聞きしようとしている。

10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全3時間、本時は第2時）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふしぎなくれよん」の活動内容を知る。 ・白い画用紙に白クレヨンで絵を描く。 ・はけで絵の具を塗る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールを見て、本時の流れを知る。 ・白い画用紙に白クレヨンで絵を描く。 ・クレヨンが絵の具をはじく様子に気づく。 ・好きな色の絵の具を選び、同じ画用紙に色を塗る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に見通しが持てるように、示範などしながらわかりやすく説明する。 ・次の活動に期待感を持てるように言葉かけを行う。 ・感じたことを表現した時、共感するような言葉かけをする。 	C②（行動観察） B②（行動観察） A①（行動観察）

		<ul style="list-style-type: none"> ・友だちに作品を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品の頑張ったところを友だちに発表する。ほかの児童は、その発表を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの作品に注目できるように言葉かけをする。 	
	2 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・白い画用紙に白クレヨンで絵を描く。 ・はけで絵の具を塗る。 ・友だちに作品を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具による色の付き方やクレヨンが絵の具をはじく様子を楽しみながら、作品を作成する。 ・自分の作品の頑張ったところを友だちに発表する。ほかの児童は、その発表を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたことを表現した時に共感し、自信が持てるようにする。 ・友だちの作品に注目できるように言葉かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> A②（行動観察） B①（行動観察） C①（行動観察）
2	3	<ul style="list-style-type: none"> ・白い模造紙に白クレヨンで絵を描く。 ・はけで絵の具を塗る。 ・作品を鑑賞し、振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな模造紙に、白クレヨンで絵を描く。 ・好きな色を選び、同じ模造紙に色を塗る。 ・完成した作品を鑑賞し、頑張ったことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちがクレヨンで描いたところを、絵の具で塗ったらどんな絵が出てくるかを楽しめるように、言葉かけを行う。 ・作品に注目できるように言葉かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> C①（行動観察） A②（行動観察） B①（行動観察）

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・クレヨンやはけを使って自由に描くことを楽しむことができる。(A②)
- ・感じたことを、言葉や声、表情や仕草で表現することができる。(B①)
- ・自分で、クレヨンやはけを持って描こうとしている。(C①)

(2) 本時の評価規準

- ・クレヨンやはけを持って描くことに楽しさを感じている。

- ・活動の中で感じたことを、言葉や声、表情や仕草で表現している。
- ・クレヨンやはけを持って描こうとしている。

(3) 本時で扱う教材・教具

- ・スケジュールカード
- ・歌詞カード
- ・示範用画用紙・台紙
- ・白画用紙（八つ切り）
- ・白クレヨン
- ・絵の具（赤、青、緑、オレンジ）
- ・はけ
- ・スモック
- ・トレイ（絵の具を入れる用）
- ・トレイ（クレヨンを入れる用）
- ・トレイ（はけを入れる用）
- ・水
- ・作品棚
- ・タイマー

(4) 児童の実態と本時の目標 略

(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準(評価方法)
8分 導 入	<p>授業前に、スモックを着る。</p> <p>① はじめのあいさつ</p> <p>② うた</p> <p>③ おはなし</p> <p>・前回の振り返りと活動内容を知る。</p>	<p>・切り替えて挨拶できるように、静かになるのを待ってから挨拶する。</p> <p>・いつもと同じ歌を歌うことで、図工の始まりがわかるようにする。</p> <p>・示範用画用紙を使って、前回の振り返りを行う。「このあと、どうなるんだっただかな」と問いかけて、前回の内容を思い出させたり、活動に期待感を持たせたりするようにする。</p> <p>・T1を見て話を聞くように促す(T2、T3)。</p>	
25分 展 開	<p>④ やってみよう</p> <p>・自分の机で白い画用紙に、白いクレヨンで絵を描く。終わったら、白いクレオンはトレイに返す。</p> <p>・好きな色の絵の具を選ぶ。</p>	<p>・机間指導を行い、活動に集中できるようにする。</p> <p>・クレヨンの活動の終了をタイマーで知らせて、クレオンをトレイに返すように指示を出す。</p> <p>・手を止めて次の活動についての話を聞けるようにする。</p> <p>・児童に合わせて、絵の具の選び方を工夫する。</p>	<p>A② 行動観察</p> <p>B① 行動観察</p> <p>C① 行動観察</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・はけで絵の具をそれぞれの画用紙に塗る。 <p>⑤ かたづけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使った道具をかごに返却する。 ・教師と一緒に机を拭く。 ・スモックを脱ぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵の具を近くに置いて待つことが難しい児童は、活動開始の時に渡すようにする。 ・道具による色の付き方やクレヨンがはじく様子を見て、感じたことを表現したとき、共感するような言葉かけをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・かごを用意して返却場所を示す。 ・使った絵の具を洗面所に流す。 	
7分 ま と め	<p>⑥ みてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前に出て、自分の作品を紹介する。 <p>⑦ おわりのあいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回の活動を聞いて、おわりのあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「がんばったこと・たのしかったこと」を、実態に合わせて発表できるように言葉かけを行う。発語が難しい児童は、クレヨンやはけなど具体物を使ってがんばったことなどを選べるようにする。 ・次の活動に期待感を持てるように、言葉かけを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・T1を見て話を聞くように促す(T2、T3)。 	

(6) 教室配置等（正面を上にして、児童生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す） 略